

平成 29 年度

## 「運営に関する計画」

大阪市立野田中学校

平成 29 年 4 月

大阪市立 野田中学校 平成 29 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

- 近年、生徒の授業態度を含む学校環境は非常に落ち着いている。しかしながら、いじめの発生件数がゼロという訳ではなく、SNS への書き込み等によるトラブルが起こっている。いじめ防止に向けた継続的な指導と保護者との密な連携により、常にアンテナを高くし早期の対応を心掛ける必要がある。
- 不登校生については要因が特定できないケースが多く対応は容易ではないが、学校全体で状況を共有し外部組織との連携も含めて地道に努力していく必要がある。
- 学力については、ICT の活用、休業期間やテスト前の補講、反復学習の強化などが奏功して府・市の平均を少し上回る結果が続いているものの、全国学力・学習状況調査における平均正答率が全国平均より大きく下回っている。国・数とも B 問題における無回答率が高く、とりわけ国語 B 問題の領域「書くこと」の乖離幅が顕著であるため授業方法について新たな取り組みが必要である。
- この 2 年間、「確かな学力」を身につけさせるべく特色ある学校運営として地域や企業との連携による「課題解決学習」に取り組んできた。生徒によるアンケートで「仲間と協力し合うこと、話を聴こうとする姿勢やルールへの遵守」などは肯定的な高い数値結果となったが、一方で「自分の考えを的確に伝えることや筋道をたてた思考」についてはまだまだ苦手とする生徒が多く打開策を検討する必要がある。

**中期目標**

**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

- 平成 29 年度～32 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年 95%以上とする。
- 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問において、「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目への肯定的な回答を 95%以上とする。
- 毎年度末の校内調査において、不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問において、「学校で、友達に会うのは楽しいと思いますか」の項目への肯定的な回答を 95%以上とする。

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

- 平成 33 年度全国学力・学習状況調査において、国語 A・B、数学 A・B 各々の平均正答率を全国平均以上、平均無回答率を全国平均以下とする。
- 平均 33 年度における「大阪市英語力調査（英検 IBA）」において、3 年生の英検 3 級レベル以上の割合を平成 28 年度（実績 44%）より 10%以上向上させる。
- 平成 33 年度全国学力・学習状況調査の生徒質問において、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」の項目への肯定的な回答を 5 割以上とする。
- 平成 33 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、男女とも体力合計点で全国の平均点以上とする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 平成29年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。
- 平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

#### 学校園の年度目標

- 平成 29 年度末の生徒アンケートにおける「学校の友だちや家族への思いやりを大切にできていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を 90%以上にする。

### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。（標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと）
- 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率4割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。
- 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率8割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。
- 平成29年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である持久走と20mシャトルランの平均の記録を、前年度より2ポイント向上させる。

#### 学校園の年度目標

- 「総合的な学習の時間」を活用した主体的かつ協働的な「課題解決学習」を通して、とりわけ本校生徒が苦手とする「考える力」（論理的思考能力）の向上を図る。目標として、当該学習の前・後における生徒アンケートにより「力が伸びた」とする肯定的な回答を7割以上とする。
- 平成 30 年度全国学力・学習状況調査において、学習指導要領の領域別での全国平均との比較で、最も乖離幅の大きい国語 B 問題の「書くこと」（平成 28 年度▲8.1 ポイント）について、2 ポイント以上向上させることを目指す。従前より「書くこと」に注力することで、論理的思考能力の向上を図る。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

(様式 2)

## 大阪市長 野田中学校 平成 29 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p><b>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</b></p> <p><b>全市共通目標(小・中学校)</b></p> <p>○平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>○平成29年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。</p> <p>○平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。</p> <p>○平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。</p> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <p>○平成 29 年度末の生徒アンケートにおける「学校の友だちや家族への思いやりを大切にできていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を 90%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>様々な事案に対して、子どもに寄り添う指導を行い生徒理解に努めるとともに、家庭との連携を密にして対応する。各生徒の状況を全教職員で共通理解し、速やかに適切な対策を講じる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前後期各 1 回の教育相談週間を設ける。</li> <li>・ 各学期にいじめアンケートを実施する。</li> <li>・ 月 1 回連絡会を行い、問題行動や、不登校生の状況を全教職員で共有する。</li> </ul>	
<p>取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>発達段階に応じ、各学年に適した指導計画を立て系統的・継続的にキャリア教育を実施する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>1 年での職業講話、2 年での「課題解決学習」、3 年での高校出前授業を今年度も継続的に取り組む。</p>	

<p>取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】 道徳の授業のみならず、「課題解決学習」や各教科の授業等におけるアクティブ・ラーニング、協働学習の取組を通して、仲間を大切にする意識の醸成を目指す。</p> <hr/> <p>指標 アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を全学年において年間20時間以上実施する。</p>	
<p>取組内容④【施策2 道徳心・社会性の育成】 読み物教材、副教材を活用し、生徒が自らの生き方を考え、意見を出し合える道徳の授業を実践する。</p> <hr/> <p>指標 年間指導計画に基づき、全ての学年で、昨年度以上に授業実践を進める。さらに道徳の教科化に向け、校内研修・研究授業を行う。</p>	
<p>取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】 人権課題に対する正しい理解と認識を深め、日常生活の中で自他の生命と尊厳を互いに尊重し合う態度をはぐくむため、年間指導計画に基づいた学年ごとの取り組み、地域・保護者と連携した取り組みを推進する。</p> <hr/> <p>指標 年間指導計画に基づき、各学年の状況に応じて行う、人権教育に関する取組みを年間3回以上実施する。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

## 大阪市長 野田中学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標(小・中学校)</b></p> <p>○平成29年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。(標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと)</p> <p>○平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率4割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。</p> <p>○平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率8割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。</p> <p>○平成29年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>○平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である持久走と20mシャトルランの平均の記録を、前年度より2ポイント向上させる。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>○「総合的な学習の時間」を活用した主体的かつ協働的な「課題解決学習」を通して、とりわけ本校生徒が苦手とする「考える力」(論理的思考能力)の向上を図る。目標として、当該学習の前・後における生徒アンケートにより「力が伸びた」とする肯定的な回答を7割以上とする。</p> <p>○平成30年度全国学力・学習状況調査において、学習指導要領の領域別での全国平均との比較で、最も乖離幅の大きい国語B問題の「書くこと」(平成28年度▲8.1ポイント)について、2ポイント以上向上させることを目指す。従前より「書くこと」に注力することで、論理的思考能力の向上を図る。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</b></p> <p>小テストの反復実施や、宿題の工夫・提出の徹底管理を通して、生徒の意欲向上とともに家庭学習の定着を図る。</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <p>課題提出の困難な生徒に対しての指導を継続的かつ柔軟に行い、最終的な提出率100%を目指す。</p>	

<p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>学力向上委員会と地域ボランティアが連携し、放課後や長期休業中に自主学習や補充学習、読書の場を設定することで自主的な学習ができる環境を整備する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>放課後や長期休業中の学習会をのべ50回以上実施し、1回当たりの平均参加人数20人以上を目指す。</p>	
<p>取組内容③【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>情報教育委員会およびICTフロンティア、ICT担当教員が中心となり、ICTを活用した授業の拡大展開を図り準備・研究を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>ICTを活用した授業についての校内研修会を複数回実施するとともに、国社数理英の5教科におけるICT機器を活用した授業の割合が30%以上になることを目指す。</p>	
<p>取組内容④【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>英語科において発達段階に応じた、「聞く」「話す」に加え、「読む」「書く」の育成も含めたコミュニケーション能力をはぐくみ、基礎基本の英語力を養う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>学校を会場とした英検を3回実施し受験を推進する。受験者数が延べ50人以上、合格率が70%以上になることを目指す。</p>	
<p>取組内容⑤【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】</p> <p>校内研修委員会の設定した研修計画に基づき、全教員が研究授業を行い、参観後のチェックシートを活用した協議を充実させることにより、指導力の向上を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>研究授業週間を設定し、全教員が1回以上の研究授業を行うとともに、他の教員の授業を3回以上参観する。</p>	
<p>取組内容⑥【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>あらゆる学校活動の中で、運動やスポーツに親しみを持てるような取組みを工夫・改善し、体育の授業以外でも運動を行う生徒を増やす</p> <hr/> <p>指標</p> <p>学校、学年での体育的行事の他、地域と連携した体力向上に向けての取組を実施する。</p>	
<p>取組内容⑦【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】</p> <p>地域及び企業など外部組織より提供を受けた課題に対して、生徒が「アクティブ・ラーニング」をもとに解決策を創りあげ発表する本校独自の「課題解決学習」を、今年度も実施する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>2年生全員を対象に、「総合的な学習の時間」を活用して14時間以上の授業を行う。</p>	

<p>取組内容⑧【施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>図書室の利用方法及び設備環境を改善し図書をより身近なものとして読書習慣を身につけさせる。そして、「新聞教育」として国語科授業で新聞記事の要約や投稿など「書く」機会を増やし論理的思考能力の向上及び長文苦手意識の解消を目指す。</p>	
<p>指標</p> <p>各学年において、積極的な図書室の利用や新聞を活用した授業を 10 時間以上実施する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	